

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 41

西予市における池とレッドデータブック 記載動植物を守る活動

愛媛県 西予市長
みよし かんじ
三好 幹二



西予市は、平成 16 年 4 月に 5 町の合併により誕生しました。514 平方キロメートルの面積と海拔 0 メートルから 1,400 メートルまでの標高差を持つ、起伏に富んだ自然豊かな街です。なかでも宇和町は西予市の中心地であり、標高平均 200 メートルの中山間盆地で、周囲を 400m から 800m の連山にかこまれています。年間平均気温は 15℃で年間平均降水量は 1,920mm と水量が豊富で稲作に適した地域であり、県下でも有数の穀倉地帯であります。

また、宇和町には 138 ものため池がありその水を利用して水田の水をまかなっております。今回紹介する西予市宇和町永長地区は平坦な水田地帯であり、ここにもため池が点在しております。

旧宇和町では、合併前の平成 13 年度に県営経営体育成基盤整備事業（ほ場整備事業）が永長地区で実施され、平成 15 年度に地区内にあるため池（西池）を地区の北側から南側へ設置替えを行うようにしていたところ、環境省・愛媛県レッドデータブックに記載されている貴重植物等（ミズタカモジグサ（愛媛県初確認）・アゼオトギリ等）が

確認されました。当地区は明治の終わり頃から大正の初めにかけてほ場整備が行われました。それ以来のほ場整備ということで、この地区の動植物にとっては長い間同じ生態環境の中で数多くの種類が残ったものと思います。そして、これらを将来的に保全していくために移植可能な空間（ビオトープ）を近くの池（奥池）に造成し、貴重種を移植しました。

このビオトープは元の池の環境に出来るだけ近づけるため、池の底にあった粘土や提体の土、植物の種子を含む表土を直接運搬するなど、貴重植物等の生態環境の保全に努め、生物が生息するための空間として整備されました。このように貴重植物の集団移植が行われ、農村特有の自然環境の保全継承を目指して官学民一体となって取り組んだことは今後の自然保護に大きな成果として表れるのではないのでしょうか。

今後は、出来る限り外から他品種を持ち込まず、自然の移り変わりを楽しみながら保全を行い、後世まで残すことが、私たちの重要な責務であると強く感じております。



貴重種の移植状況



完成したビオトープ